

la santé 健康

# ラ・サニテ



vol.153  
令和4年1月25日

2022 新春

編集・発行：社会医療法人玄真堂  
広報委員会：立川隆子、平島好美  
〒871-0012 中津市宮夫14-1  
TEL0979-24-0464  
<http://kawashimahp.jp>



『遊牧の少女』川嶌 照代 画

## 理 念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

## 運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。



# 新年のごあいさつ

社会医療法人 玄真堂 川崙整形外科病院

院長 川崙 眞之



新年明けましておめでとうございませう。平素よりご支援・ご高配をいただき誠にありがとうございます。おかげをもちまして当法人は昨年40周年を迎えることができ、また第21回九州高気圧環境医学会もハイブリッド形式にて国境を越えて無事開催することができました。これもひとえに皆様方のご支援とご指導の賜物と感謝申し上げます。

この約2年間は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、医療のみならずほぼ全ての分野において多くの環境が変化しましたものと思えます。

当院は救急告示病院であり外傷などによる救急患者を受け入れているため、発熱のある患者さんを受け入れるにあたり、当初はその対応に大変苦慮いたしました。例えば高齢者に多い大腿骨近位部骨折はほぼ全例に早期手術が必要な外傷ですが、治療が遅れると痛みが持続するのはもちろんのこと、誤嚥性肺炎や血栓症などで死亡率が高ま

る可能性があります。このような患者さんでは発熱を伴うことが多々あり、その発熱の原因が外傷に伴うものもあれば、脱水に伴うものもありますし、肺炎などの疾患による衰弱が原因で転倒・受傷することもあります。したがって発熱のある救急患者さんを受け入れることにより、新型コロナウイルスに感染した患者さんが入院する可能性があります。実際に全国各地の救急病院では別疾患の救急患者からの新型コロナウイルス感染症の

クラスター発生が多く報告されました。

一方で当院が整形外科関連の救急患者を断ると、多くの場合、福岡県や別府・大分方面の病院へ搬送せざるを得ないことが多く、そもそもそのような地域では感染状況によつては他地域の救急患者受け入れを拒否される事態もおきていたため、できるだけ地域の患者さんは受け入れていこうと職員が一丸となつて対応してくれました。今でこそ院内で新型コロナウイルス抗原

定性検査やPCR検査も

可能となり、通常に近い状態での診療可能となりましたが、当初はその対応に薄水を踏む思いでした。

また院内検査も万能ではなく、患者さんや職員の検査で陽性（結果的には偽陽性）が出てしまうこともあり、関係する職員の勤務停止が必要となることもありました。特に感染者が大幅に増えた第5波に至っては、連日、

中津近隣で感染者の発生が報告されるたびに職員やその家族が感染者と接触、あるいは家族が感染したとのことで、当該職員や接触した職員の勤務

を停止せざるを得なくなり、通常診療の継続が危ぶまれることもありました。

ワクチン接種が進むにつれ、最近はやく感染状況が落ち着いてきたため、禁止していた入院患者さん、入所利用者さんの面会も条件付きながら開始することができました。ワクチンについては当院でも個別接種を行ったほか、多くの職員が中津市の集団接種にも参加しており地域の感染対策の一端を担うことができましたのではないかと思います。

今後はオミクロン株による第6波の懸念もありますが、引き続きワクチンの3回目ブースター接種事業への参加のほか、これまで取り組んできた救急医療、高気圧酸素とナノバブル水による骨関節感染症治療やポータブルナビゲーションによる人工関節置換術、関節リウマチに対する先進の薬物療法、また新たな取り組みとして椎間板内酵素注入療法や関節症に対する再生医療など、急性期から回復期・介護までの地域包括ヘルスケアを担う整形外科専門総合病院・法人として前進していきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。





# 地球環境の激変に思う

## — 医療機関もSDGsを —

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院  
理事長 川島 真人

2021年のノーベル物理学賞を、真鍋淑郎博士（米プリンストン大学 首席研究員）が12月6日受賞した。日本人として大受賞に思うことである。この受賞における地球温暖化の根拠を科学的に示した研究がなされた場所は、私が永年関係していた米国海洋大気局（NOAA）であったことは驚きであった。真鍋博士は東京大学卒業後、米国気象局の研究員、米国海洋気象庁地球流体力学研究所の上級研究員であったことが知られている。今回の受賞理由は「気候の物理的モデリング、気候変動の定量化、地球温暖化の確実な予測」に関する業績で、現在に於いては誰もが感じている地球の温暖化は、温室効果ガスやメタンガスが増え、熱が宇宙に放出されずに溜まっている状況にあり、地球環境の激変が地球温暖化に起因していることを、科学的根拠を示して明らかにした。北極の氷山の融解やアラスカやカナダ等の氷河の融解、日本に於いても人吉や山口県の洪水や豪雨等も、全て人間が自ら引き

起こしたものであることを明らかにした。地球上の森林や海洋等の自然が吸収出来る二酸化炭素の量は年間約180億トンに対し、340億トンが排出されており、毎年160億トンが地球の大気中に残り、温暖化を進めていると見られている。過去1300年間の気温変化より、近年の温暖化が過去に例のない上昇を示していることが明らかにとなっている。この二酸化炭素の70%近くは日本を含めた十数カ国の先進国によって排出されていることが問題となっている。真鍋博士は早くからこの事に注目し、30年間にわたり研究していた米国海洋大気局は、ニクソン大統領の提案により、1970年に設立され、通称「NOAA」という組織に集約統合され「米国海洋大気局」となった。この問題は1992年、国連環境開発会議で採択された「気候変動枠組条約」の締結国により、毎年、温室効果ガス排出削減策等を協議する会議・地球環境問題会議（COP）が開催されている。1997年のCOP3は



図1. 減圧性骨壊死共同研究者ランフィア教授、レーナー博士、北野教授 1986年 UJNRにて

京都で開催され、各国の具体的な温室効果ガス排出削減目標を課した「京都議定書」が採択された。その後も、2015年にはCOP21、2021年にはCOP26が英国のグラスゴーで開催されたのはつい最近のことである。国際的な数値目標が定められ、先進国全体で気温上昇を1.5度に抑えるために、石炭の段階的廃止、森林破壊の削減、電気自動車への切り替え、再生可能エネルギーの奨励を重視している。今日、国連に於いてもSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、加盟国193カ国が2016年から2030年迄の15年間で達成するため掲げた17の目標である。この中の13番目には「気候変動に具体的な対策を」ということが進められている。今後、医療機関も「SDGs」

に真剣に取り組まなければならぬことを実感している。私達も、米国と日本の政府間協定に基づいて、米国海洋大気局と日本海洋開発センター（JAMSTEC）の間で2年ごとに日米交互に天然自然開発会議が開催されることとなり、1972年、第1回の会議が東京で開催された。1973年には、米国のシアトルで開催され、九州労災病院に赴任していた私は、その代表の一人として「潜水士の骨壊死研究」のテーマで発表することとなり、この会議に関わっていく第1歩となった。その後1975年に東京で開催され、眞野喜洋東京医科歯科大学教授と共にNOAA（米国海洋大気局）の部長（後にホワイトハウスのスタッフとなったウイリアム・ブッシュ博士等、多くの関係者と知り合う事になった。1986年にはハワイのホノルルで開かれ、私達はウイスコンシン大学のランフィア教授、レーナー博士らと共に眞野教授、北野元生鹿児島大学教授らと一緒に「潜水士の骨壊死予防について」の動物実験を、羊を使って実施することから始まった。（図1）その後、この実験は最近まで続けられ、

最終的に羊を500頭使ってしまった。1989年には、国際高圧医学・潜水医学セミナーが当院で開催され、NOAAのブッシュ部長やUHMS（国際潜水・高気圧環境医学会）のグリーン・バウム理事長、NOAAのミラー部長とともに天児民和先生御夫妻も参加して戴いた。（図2）その中でブッシュ部長は、「これから地球温暖化が大変大きな問題となり、地球環境が激変すると予測されるので様々な協力が必要となってくる」と訴えていた。私達は潜水病のみならず環境問題に大きな示唆を戴いた。この会議は1991年には箱根で、1993年にはワシントンで開



図2. 1989年 高圧2号基完成記念 国際高圧医学・潜水医学セミナー





図3. 1993年 ホワイトハウス見学

催され、当時ホワイトハウスのスタッフとして勤務されていたブッシュ博士の自宅や、米国側の議長であるジョン・スミス海洋大気局長にも招かれ、親しく交流することが出来た。(図3) 2001年には中津に於いても国際セミナーが開催され、ウィリアム・ブッシュ博士のみならずUHMSのドン・チャンドラー理事長、直前理事長であったグリーン・パウム博士、宇宙開発事業団の嶋田和宇宙医学研究開発室長らと共に当院でセミナーが開催された。(図4) この時、諸氏とも既に環境問題をテーマとして取り上げておられた事が印象に残っている。

彼らが当院に植樹した桜が今は大きく育ち、毎年美しい花を楽しませてくれる。(図5)

ブッシュ博士は5回にわたって当院を訪れ、親密な関係を構築していただいた。2008年



図5. 2001年 潜水・高気圧環境医学会にて桜の植樹



図4. 2001年 潜水・高気圧環境医学会

には中津に於いて第3回日米宇宙・潜水・高気圧環境医学会を開催することとなった。(図6) この様なことから、我々は先ず1992年のブラジル会議より、太陽熱の給湯・太陽熱発電・地下熱の利用、天然ガスによる冷

暖房、徹底したリサイクル、職員と共に植樹、屋上に庭園を造り残食肥料の活用、中津ロータリークラブで環境問題を主催して、ゴミの分別や植樹運動を地域全体で開始する事を決め、中津市大貞の運動公園には「中津ロータリーの森」を創り、更には商工会議所の方々と、桜の苗1万5千本、もみじの苗15万本を植える運動に参加してきた。また、災害に備え被災地(雲仙・三陸・熊本等)に職員とともに足を運び、来るべき南海大地震に備えている。歴史的にみても



図6. 2008年 UJNR中津で日米宇宙・潜水・高気圧環境医学合同学会

暖房、徹底したリサイクル、職員と共に植樹、屋上に庭園を造り残食肥料の活用、中津ロータリークラブで環境問題を主催して、ゴミの分別や植樹運動を地域全体で開始する事を決め、中津市大貞の運動公園には「中津ロータリーの森」を創り、更には商工会議所の方々と、桜の苗1万5千本、もみじの苗15万本を植える運動に参加してきた。また、災害に備え被災地(雲仙・三陸・熊本等)に職員とともに足を運び、来るべき南海大地震に備えている。歴史的にみても

865年の貞観地震以降定期的に日本を襲っており、これらの対応に手抜かりがあつては病院の存続は出来ないという事を理解しておかなければならない。近年では山国川の大洪水があり、災害支援とともに災害の実態をつぶさに見てきた。その経験から新病院では耐震化や自家発電機の増設、非常食や医薬品の備蓄、毎月の防災点検、加えて定期的な防災訓練の実施等を行っている。近年に於けるコロナの問題も、地球環境の激変から起きたという説もあり、野生動物(特にコウモリ等)が森から追い出されて、様々な動物に寄生してコロナウイルスをばらまくということが起きている。それが2002年の「SARS」であり、2012年の「MERS」であり、そして今回の「新型コロナウイルス」であるという事は多くの学者が指摘しているとおりである。これらは全て野生動物が起源とされ、それらの住み家が乱開発や自然破壊によって自然界から追い出され、そのウイルスと人間が接触するチャンスが必然的に増えてしまった、と国立環境研究所の生物学者・五箇公一氏が指摘するとおりである。富士川遊の『日本医学史』によると、前野良沢は、「人間が自然界の一部を支配したりすること

ができると非常に傲慢になつて独力でしたように思う。自分の力は自然の力の一部という謙譲の心が重要である」と述べている。自分の力が大なる自然の一部であることを考えれば、人間が何やかやとやることは、全く自然の力の働きの一部であると考えねばならぬ。と良沢は述べている。

東日本大震災の被災地・宮古市を訪れた時に、高さ70mの巨大堤防がいつも簡単に崩壊されているのを見て、人間が自然に逆らつて生きることの虚しさを感ずずにはおられなかつた。人間は自然に合わせた生活がいかにか大事かという事をあらためて思い知らされた。前野良沢は、「天地の運行に過不及があることは、其の原因は人為にある。山林を伐り尽くせば干ばつ烈風が至る」と述べている。アマゾン等各地で進んでいる森林の無秩序な伐採(森林破壊)を良沢は予測していたのかも知れない。

また、杉田玄白も「医事は自然に如かず」と晩年残し、自然界の大きな流れの中で生かされている我々は、自然に生きるからこそが最も重要だと言っている。コロナ後の世界は、我々もこの様な視点を持つて病院を運営し、又社会に対し貢献をする中で経済効率第一の政策の見直しを求めていかなければならない。

865年の貞観地震以降定期的に日本を襲っており、これらの対応に手抜かりがあつては病院の存続は出来ないという事を理解しておかなければならない。近年では山国川の大洪水があり、災害支援とともに災害の実態をつぶさに見てきた。その経験から新病院では耐震化や自家発電機の増設、非常食や医薬品の備蓄、毎月の防災点検、加えて定期的な防災訓練の実施等を行っている。近年に於けるコロナの問題も、地球環境の激変から起きたという説もあり、野生動物(特にコウモリ等)が森から追い出されて、様々な動物に寄生してコロナウイルスをばらまくということが起きている。それが2002年の「SARS」であり、2012年の「MERS」であり、そして今回の「新型コロナウイルス」であるという事は多くの学者が指摘しているとおりである。これらは全て野生動物が起源とされ、それらの住み家が乱開発や自然破壊によって自然界から追い出され、そのウイルスと人間が接触するチャンスが必然的に増えてしまった、と国立環境研究所の生物学者・五箇公一氏が指摘するとおりである。富士川遊の『日本医学史』によると、前野良沢は、「人間が自然界の一部を支配したりすること



## 第142回西日本整形・災害外科学会で発表して

医師 豊島 嵩正

2021年12月11日、12日に熊本県で開催された第142回西日本整形・災害外科学会学会術集会に参加しました。今回は古江先生、後藤先生のご指導、ご同行のもとで学会参加となりました。発表は12月12日午後と全体でも最後の発表となりました。コロナ禍で参加者は例年よりも少なく感じられたものの、最終日の発表にも関わらず多くの先生方が参加してくださいました。自身は珍しい症例の発表でしたが、他病院の先生方からいくつか質問をいただきました。学会発表では質疑応答が最も緊張する時間となりますが、何かお答えすることができたため、発表終了時に安堵した覚えがあります。他の先生方の中に



は、平然と、むしろ楽しみながら発表をこなす先生がいらっしゃると思いますが、どれほどの数をこなせば、その境地に至るのか、果たして自分にその段階が来るのか甚だ疑問に感じます。学会は当院の発表を報告する一方で、他病院の様々な症例・講義を耳にすることができ、新鮮なことを学べる大変いい機会であるように感じました。今後も知識のアップデートを忘れず、日々の診療に誠意を尽くしていきたいと考えております。

## 第39回大分県病院学会に参加・発表して

高気圧治療科副主任 宮田 健司



2021年11月28日に大分県別府市で開催された第39回大分県病院学会に参加・発表致しました。新型コロナウイルス感染症の影響にて前回は完全Web開催（LIVE配信およびオンデマンド配信のみ）でしたが、今回はハイブリッド開催（特別講演およびシンポジウムは現地開催とLIVE配信およびオンデマンド配信、一般演題はオンデマンド配信のみ）となりました。人数制限はあるものの、私は現地開催に参加させて頂きました。今回の学会テーマは『道の道とすべきは常の道にあらず病院長の成長にゴールはない』と題しまして、特別講

演では東京電機大学研究推進社会連携センター顧問・客員教授 佐々木良一先生による『コロナ後に拡がる医療デジタル化とそのセキュリティ対策』の講演、シンポジウムでは『コロナ禍を乗り越えた病院の新しい展望』をテーマに4人のシンポジストによる講演と討論が行われ、中でも特別講演では10月末に徳島県の医療機関で起こったサイバー攻撃の記憶もまだ新しく、大変興味深く聴講させて頂きました。また、12月1日からは一般演題のオンデマンド配信が始まり、当院からは私を含む2演題の発表がありました。私

学会会場にて  
(左) 宮田 (右) 別府管理栄養士

に対して高気圧酸素治療』を発表し、もう一つは栄養管理科・別府杏聖管理栄養士が『栄養指導実施件数増加に向けた取り組み』を発表しました。

た。発表は音声入りの発表スライドを動画化したものをWeb上で視聴して頂き、質疑応答は文書のみで行うという形式でした。そのため、従来のような学会当日の緊張感はなく気楽ではありましたが、達成感はある若干少ないようにも感じられました。現在、日本国内では新型コロナウイルス感染者が減少しているものの、新たな変異株が確認されるなど第6波も懸念されていますが、早く新型コロナウイルス感染症が落ち着き、通常の学会が開催されることや現地の発表が出来ることを祈念しております。



シンポジウム（討論）の様子



# 第34回 マンドラゲの会

社会奉仕委員会

牟田口 瞬



2021年10月9日(土)、大江医家史料館にて第34回マンドラゲの会が開催されました。皆様のご協力のおかげで、感染対策の体温チェック・手指消毒を徹底して行うことができ、滞りなく会が開催できたことに感謝申し上げます。

当日は、大江医家史料館での薬草園の手入れ・採取を行った後、西蓮寺にて大分大学名誉教授である島田達生先生に「中津の三賢人、良沢(蘭化)、諭吉、淳の共通項」というテーマで御講演をして頂きました。講演内容は、ノーベル賞を超える業績と讃えられ「ペースメーカーの父」とも呼ばれ、



心臓の刺激伝導系であるプルキンエ線維を発見された田原淳先生についてのお話でした。解剖学・心臓学の歴史を変えた人物が日本人であることに強く感銘を受けました。また、近年、医療に携わっていない人、若年者などへの関心を引

## 骨と関節の日

放射線科 副主任  
佐々木 博章



2021年10月16日(土)、川島整形外科病院1階玄真堂ホールにて、骨と関節の日が開催されました。最初に「骨粗鬆症について」講師・豊島嵩正先生の骨粗鬆症の検査から治療について、また、骨が弱くなり骨折した時の治療など、臨床でのお話もあり、とても患者さんに興味深い内容でした。谷理学療法士からは椅子に座ったまま簡単な体操をして頂き、リフレッシュで

くよう田原淳先生の物語が漫画化されています。漫画化という新たな形で、日本の偉人が後世に伝わっていき、意思が引き継がれている事は素晴らしいことだと感じました。

コロナ禍の中で、第34回マンドラゲの会を開催するにあたって、玄真堂の社会奉仕委員の一員としてお手伝いできたことと、貴重な御講演を聞くことができたことを嬉しく思います。ありがとうございます。

きました。私は診療放射線技師の立場で、「丈夫な骨で生涯現役」というテーマでお話しさせていただきました。どうやって骨密度を検査するか？検査方法、検査結果の見かた、定期的にチェックする事で骨の丈夫さを知り骨折のリスクを軽減できる事を話しました。また自分なりに骨折しない為のアクションを考えました。その一つが柴犬と一緒に散歩する事で四季の移ろいを感じながら運動し、お腹



をすかせておいしく食事をいただくことです。運動食事に気を付けて骨粗鬆症にならないように努め、生涯現役で頑張りたいと思います。





# 職員旅行に参加して

老健なのみ  
長谷川 進作



2021年11月21日、22日の2日間、天ヶ瀬の復興支援も兼ねた職員旅行に参加させていただきました。コロナ禍での旅行ということで、事前に参加者全員PCR検査を実施し「陰性」を確認。バス内は乗車時に毎回手指消毒を徹底、マスク着用と無念の車内飲酒禁止の旅となりました。



旅館での食事は基本黙食、話す時はマスクを着用し感染予防に努めました。皆、色とりどりの美味しい食事に大満足。理事長先生の計らいで、くじ引き会があり、静かな宴会の中で参加職員は各自当たった景品を前に大変喜ぶシーンが見られました。私は「すぎ焼きセット」が当たりました。とても嬉しかったです。

天ヶ瀬は、昨年7月の豪雨被害からの復興途中で、いたるところに水害の爪痕があり、自然の恐ろしさを実感しました。2日目の早朝、眠い目をこすりながら慈恩の滝を見学。滝の上から朝日が射すという神々しい風景に目が覚め、何か良いことが起こりそうな予感すらしました。次に、くじゅう花公園で満開のマリーゴールドに遭遇、鮮やかな黄色とオレンジ色で「マリーゴールドってこんなに大きかったっけ？」という大きなサイズ感でした。昼食は久住高原コテージで満腹、お土産はガンジーフアームで済ませ、最後にミルク感いっぱいソフトクリームを食べ、帰路に着きました。バスを降りる前に抗原

検査を実施、全員陰性判定となり、安心して旅行を終えることが出来ました。2日間の旅行で体は疲れましたが、何よりも心がリフレッシュ出来たので、明日からの仕事を頑張ろうと強く思いました。



## 管理職研修会を終えて

回復期リハビリテーション科 主任 斉藤 直人

11月23日(火)、第32回管理職研修会を、「心理的安全性(患者・利用者の安全、安心のために)」というテーマで行いました。「心理的安全性」は、スタッフ間で意見交換・報告をする場面等で、遠慮をしたりマイナスイ思考になったりして、発言を控えてしまうという環境を心理面から変えていく考え方です。

上司部下、どちらの立場であっても、「自分分は完璧な人間ではない」という概念で、互いに何事も謙虚に捉え、相手を理解し、耳を傾け、前向きに行動していくことの重要性を管理職皆で学びました。

また、疑似課題についてのグループワークでは、物事を謙虚に捉え視点を少し変えてみることで、意見をくれた人へ感謝を示す姿勢について、実際に各自が考え発表し合いました。このことでさらに理解を深める事が出来たのではないかと思っています。



今回の研修会での学びを今後の現場でも広く活用し、謙虚な気持ちで多くの意見に耳を傾けながら、上司とも部下とも積極的にコミュニケーションをとる、活発で積極的な職場づくり、スタッフ育成等、管理職としての役割を果たしていきたいと思いました。





# オリンピックは要らない



副院長  
古江 幸博

内の甲子園大会やインターハイも同じである。

2021年夏の東京オリンピックは、賛否両論のなか既定路線で行われた感があるが、終わってみれば、スポーツの力は圧倒的で、批判的だった人の中にも感動を覚えた人は少なくないだろう。柔道、ソフトボール、野球、体操・私も感動して涙した一人である。

一方、テニスでは猛暑のために棄権が相次ぎ、せっかく札幌に移したマラソンも季節外れの暑さで選手の不満が続出した。地球温暖化問題が議論されて久しいが、今の地球環境では、夏の屋外競技を行って良いのか？という局面にきているように思う。これはオリンピックに限らず、国

また、中国の非人権的問題

に関して、2022年北京オリンピックへの外交的ボイコットの懸念が現実化しつつある。オリンピックは平和の祭典であり、政治的利用には用いず、商業目的にも利用しないと五輪憲章にはあるはずだが、政治の関与、莫大な予算、放映権問題はどの大会にも付きまとう。東京でも兆という予算をどこが払うか押しつけ合っていたが、どこが払ったにしろ我々の税金である。

世界一を決めるならば、それぞれ競技の世界選手権を行えばよい。一堂に会してとなると、どうしてもお祭りになってしまうのは当然である。

オリンピックは要るのだろうか？

# コロナ禍でのクリニックリハビリ

クリニックリハビリテーション科 科長 近藤 征治

平成12年に川島整形外科病に併設して、かわしまクリニックが開院しました。

クリニク開院から約21年経て、現在クリニックリハビリでは、理学療法士12名・作業療法士4名・助手4名が働いています。開院当初に比べ職員も増え、患者数も累計で年間十一万人以

上の方が、クリニックリハビリの治療に訪れていました。

そんな中、昨年の3月頃より日本全国で新型コロナウイルス患者が急増し、中津市も毎日のように新型コロナウイルス患者の感染報告が多くなっていました。

クリニックではコロナの感染対策として、正面玄関で全ての患者の検温を行い、クリニック内では不織布マスクを着用して職員・患者の移動の徹底をしています。

また、クリニックリハビリでも感染対策として、患者使用後の全ベッド・器具・道具の除菌作業と室内換気の徹底を行い、現在まで新型コロナウイルス感染の報告は有りません。



職員一同、地域の皆さんの日常生活の動作の改善や健康を維持するために、最新の治療とコロナの感染対策を行っています。健康を維持したい。運動がしたい、リハビリに興味のある方は、ぜひ一度診察時に担当Dr.へご相談してみてください。





# 整形外科における高気圧酸素治療について

高気圧治療科 統括科長 臨床工学技士 山口 香

高気圧酸素治療（HBOT）は高気圧治療装置（通称：高圧タンク）の中で、2気圧まで気圧を高め、100%の酸素を60分間吸入することで体内の酸素量を増加させる治療法です。整形外科だけでなくその他の診療科疾患でも利用されており、次のような疾患に対して行われます。

## HBOTの効果が期待できる主な疾患（整形外科疾患）

- 骨髄炎
- 難治性皮膚潰瘍
- 蜂窩織炎
- 脊髄神経疾患（頸髄症など）
- 熱傷
- 化膿性関節炎
- 糖尿病性足病変（潰瘍・壊疽）
- 末梢血管障害
- コンパートメント症候群
- 皮膚移植後
- 化膿性脊椎炎
- ガス壊疽・壊死性筋膜炎
- 脊髄損傷
- 圧挫減創
- 末梢循環障害など

## 当院で治療実績のある他科の疾患

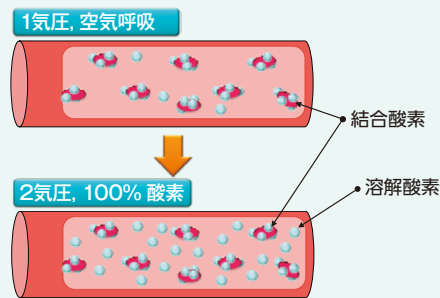
- 減圧症（潜水病）
- 急性一酸化炭素中毒
- 網膜動脈閉塞症 など
- 突発性難聴
- 脳梗塞
- 放射線性 消化管・膀胱出血
- 低酸素脳症



## HBOTの治療原理・効果

HBOT中の体内の酸素量は通常よりも10倍程度増加します。その理由は、大気圧下ではほとんど存在しない溶解酸素が増えることにあります。圧力が高い状態では気体が液体に溶けやすくなる現象を利用したものです。通常の酸素運搬は、血液中の赤血球が酸素と結合して血液の循環によって行われます(結合酸素)。HBOTではそれに加えて、血液中の液体成分に酸素が直接溶け込むことで酸素運搬量を増やしています(溶解酸素)。

通常とHBOT中の酸素運搬の違い



体内の酸素量が増えることによって、次のような効果があります

- 低酸素状態にある組織を改善する
- 酸素自体に殺菌作用がある
- 白血球の作用を増強して自己免疫能力を高める
- 抗菌薬の作用を増強する
- 損傷した組織の修復を速める
- 血管収縮による浮腫の軽減
- 組織での酸素拡散距離の増加（酸素が行き渡りやすくなる）

## 治療について

当院の高圧タンクは同時に5人まで治療が受けられます。治療室内の気圧を変化させますので、耳抜きを行っていただく必要があります。飛行機に乗った時に耳の圧迫感や痛みを感じたことがあると思います。その時につばを飲み込んだり鼻をつまんで息んだりして耳を正常な状態に戻す動作が耳抜きです。初めは耳抜きが苦手な人でも、ほとんどの人は何回か入っているうちにコツをつかんでいきます。治療圧力まで気圧が上がったら、酸素マスクを着けて酸素を60分間吸っていただきます。その間は本を読んだり、お休みになられたり、室内に流れる音楽を聞いたりしてお過ごしください。治療は専門の資格を持った職員が常に管理しております。高気圧酸素治療について詳しくお知りになりたい方は、お気軽にお問い合わせください。





## 院内勉強会

### モーニングセミナー

- 2021.9.24  
「半年間の研修を振り返って」  
岡本医師
- 2021.10.15  
「疲労の科学」  
原西麻酔科部長
- 2021.11.19  
「地球の温暖化を考える」  
田村センター長

### カワシマハンドセラピー研究会

- 2021.9.13  
「症例報告」  
榎木、奥貞作業療法士
- 「上腕骨近位端骨折（分類、診断、治療）」  
寺本作業療法士
- 2021.10.18  
「症例報告」  
永田、川端作業療法士
- 「上腕骨近位端骨折（リハビリ:保存、髄内釘、LP固定、Zuggertung）」  
奥貞作業療法士
- 2021.11.15  
「症例報告」  
岸本リハビリテーション部副主任・奥貞作業療法士
- 「上腕骨近位端骨折（人工骨頭置換術:適応、リハビリ）」  
石井作業療法士

### 川島肩をカタらう会

- 2021.9.27  
「広範囲腱板断裂について」  
丸目理学療法士
- 2021.10.25  
「肩関節の痛みについて」  
羽田リハビリテーション部主任
- 2021.11.29  
「鎖骨骨折について」  
河内理学療法士

## 院外発表・講演

- 2021.9.8  
大分県北ブロック症例検討会 (Web)  
「膝蓋骨骨折術後の膝関節運動に着目した一例」  
河内理学療法士発表
- 「大腿骨骨幹部骨折患者の膝屈曲角度に着目した一考察」  
田西理学療法士発表
- 「転位性骨腫瘍による病的椎体骨折を呈した症例の一考察」  
丸目理学療法士発表
- 「入院中の患者様が抱えるストレスとの関わり方で学んだこと」  
前田理学療法士発表
- 「大腿骨頸部骨折術後の歩容改善に着目した理学療法の一考察」  
三代理学療法士発表
- 2021.9.15  
2021年度 運動で健康づくり推進員養成講座「元気ハツラツ教室」 (中津市)  
「運動障害とその予防」  
奥村病院リハビリテーション科科長講演
- 2021.10.15-16  
第55回日本高気圧環境・潜水医学会 (那覇市)  
「脊髄型減圧症の神経学的重症度と治療予後」  
山口高気圧治療科統括科長発表
- 2021.10.16-17  
九州理学療法士学会大会2021 (Web)  
「リスフラン関節脱臼骨折にコンパートメント症候群を合併した症例」  
谷理学療法士発表
- 2021.11.4  
大分県理学療法士協会 社会局 スポーツ事業部 研修会 (Web)  
「スポーツ理学療法の基礎 STEP4「臨床」」  
奥村病院リハビリテーション科科長講義
- 2021.11.7  
第5回 CLAP seminar for joint infection (Web)  
「川島式持続洗浄の実力」  
川島院長講演
- 2021.11.28  
第39回大分県病院学会 (大分)  
「当院における手部の外傷に対する高気圧酸素治療」  
宮田高気圧治療科副主任
- 「栄養指導実施件数増加に向けての取り組み」  
別府管理栄養士発表



## 看護部勉強会

- 2021.9.6  
医療ガス・医療機器の取り扱い
- 2021.9.16  
リーダー研修
- 2021.9.19  
新人中期学習会前半
- 2021.11.1  
トリアージ勉強会
- 2021.11.6  
新人中期学習会後半

## 膝関節勉強会

- 2021.9.8  
「脛骨顆間隆起骨折」  
穴見理学療法士
- 2021.10.13  
「ACL損傷について」  
三代理学療法士
- 2021.11.10  
「変形性膝関節症の保存療法～運動療法を中心に～」  
田西理学療法士

## 医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

2021.9.7

非接触型ACL損傷と膝解剖の形態学的特徴（ $\alpha$ 角と顆間窩型）との関連

本山副院長

2021.9.14

TFCC損傷に対する観血的手術の成績

古江副院長

2021.9.28

軽度、中等度、または重度の腎不全のあるメタル・オン・メタル股関節形成術を行った患者にコバルトまたはクロムは蓄積するか？

川島院長

2021.10.5

半月板の力学的な症状は半月板の病態ではなく、軟骨の損傷によって引き起こされる

渡邊医長

2021.10.12

上腕骨近位端骨折後の死亡率

佐々木診療部長

2021.10.26

関節鏡視下、前距腓靭帯修復術において下伸筋支帯による補強術を追加する・しないの比較

後藤診療副部長

2021.11.9

60歳以上でのGarden I - II の大腿部頸部骨折で術前の前後傾が治療失敗、再手術の予測因子となる

豊島医師

## 論文（共同含）・誌上発表

- 濱田泰彰、後藤剛 他：距骨下関節脱臼に対して従手整復後4週間の距踵関節固定を行った2例，整形外科と災害外科，Vol70，No3，225-227，2021
- 羽田清貴、辛嶋良介（日本理学療法士協会ガイドライン作成メンバー）：股関節機能障害理学療法ガイドライン，理学療法ガイドライン第2版，397-423，2021





# 第39回 玄真堂友の会開催のお知らせ

テーマ つながる食・ひろがる未来

理事長川島真人、管理栄養士深川明美による新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と予防、免疫力UPの食事の講演他、恒例の参加型健康クイズ、ストレッチ体操、コーラス、ミニ演奏会も開催します。みなさまと一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

●開催日：2022年3月26日(土) 14:00~16:00

●場 所：川島整形外科病院1F 玄真堂ホール

●講演 講師：理 事 長 川 島 真 人

●講演 講師：管理栄養士 深 川 明 美



参加される際はマスク着用・手指消毒 など感染予防にご協力ください

## 新規友の会会員募集中!

友の会会員を随時募集中。入会頂くことで様々な特典を受けられます。

詳しい内容はお近くの職員にお尋ねください。

パンフレットもございます。

### 会員特典

- ① 高気圧酸素自費治療 5%OFF
- ② アンチエイジングドック 5%OFF
- ③ 川島真人著書 20%OFF
- ④ 玄真堂情報誌「ラ・サンテ」配布 等

※友の会会員以外の方もご参加できます。

玄真堂友の会実行委員会

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。いつもラ・サンテを愛読頂き有難うございます。皆様に見やすく、わかりやすい情報をお届けできるよう、委員一同取り組んでまいります。本年もどうぞ宜しくお願い致します。  
(T・T)

### 【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

#### [患者様の権利]

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

#### [患者様の責務]

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い